

2022年3月期 第2Q決算
計画・事業戦略説明会

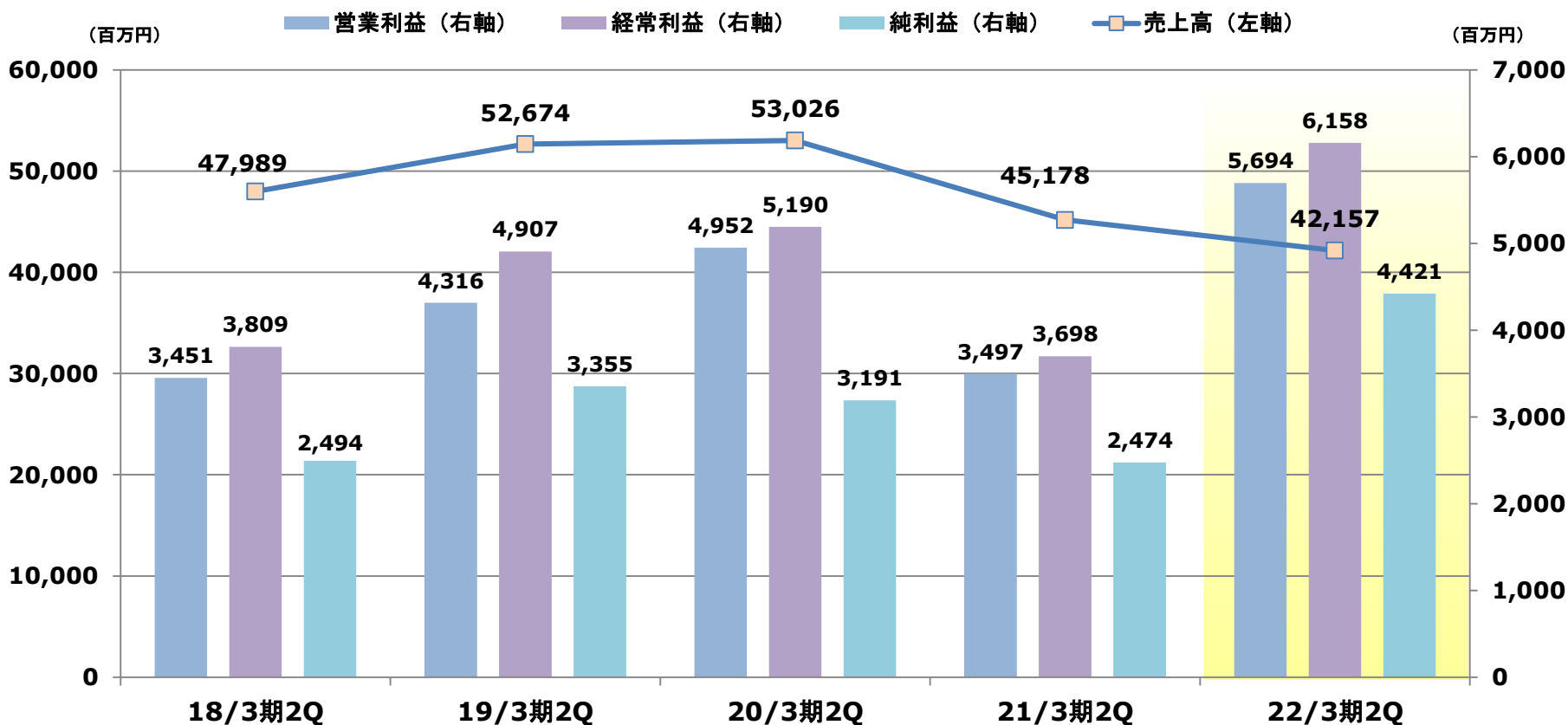
2021年12月2日

2022年3月期 第2Q業績

業績推移(18/3期2Q~22/3期2Q)

- 今期から適用した収益認識基準の影響を除くと、実質増収を達成
- 各段階利益は、過去最高を大幅に更新

売上高および営業利益、経常利益、当期純利益の推移



(※)22/3期より「収益認識に関する会計基準」等を適用

2022年3月期 第2Q概況

- コロナ禍の影響を受けた前期から各段階利益はV字回復、期初計画を大幅に上回る
- ヘルスケアや合成ゴム・合成樹脂等の付加価値の高い製品群が業績を牽引

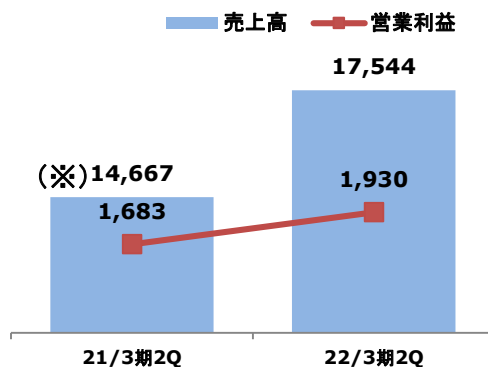
	21/3期2Q		22/3期2Q		増減率(%)	増減額	期初計画	達成率(%)	差異
	(百万円)	構成比(%)		構成比(%)					
売上高	45,178 (※)34,507	—	42,157	—	(※)22.2	(※)7,650	37,000	113.9	5,157
営業利益	3,497	(※)10.1	5,694	13.5	62.8	2,197	4,000	142.4	1,694
経常利益	3,698	(※)10.7	6,158	14.6	66.5	2,460	4,400	140.0	1,758
四半期純利益	2,474	(※)7.2	4,421	10.5	78.7	1,947	3,200	138.2	1,221
一株利益(円)	104.60	—	189.55	—	—	—	—	—	—
海外売上高	(※)11,710	33.9	14,137	33.5	—	—	—	—	—

(※)「収益認識に関する会計基準」等を適用したと仮定して算出

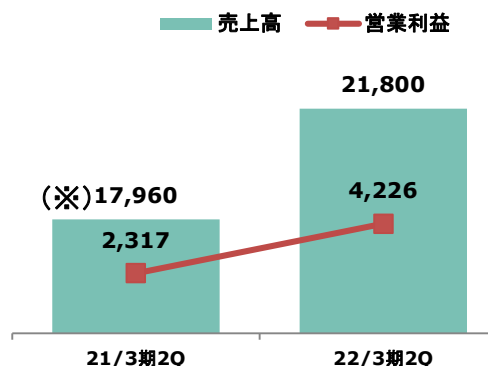
	21/3期2Q	22/3期2Q
U S \$ / 円	107円	110円
ユ ー ロ / 円	120円	131円
ナフサ(円/KL)	27,000円	49,500円

セグメント別売上高・営業利益比較

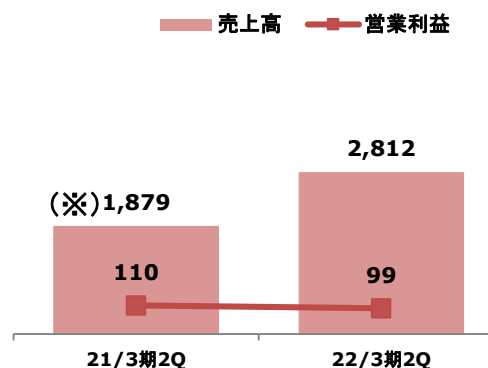
基礎化学品



機能化学品



住宅設備ほか



感染症拡大の影響による景気の落ち込みから回復

- クロール・アルカリ
かせいソーダ、かせいカリを中心に販売が増加
- エピクロルヒドリン
電子材料関係を中心に需要が回復
原燃料価格高騰に対する価格是正を着実に実施
- 生産コストダウン（AC反応収率アップ等）も利益に貢献

合成ゴム・合成樹脂は需要回復

アリルエーテル類、ヘルスケアは前期に続き好調を維持

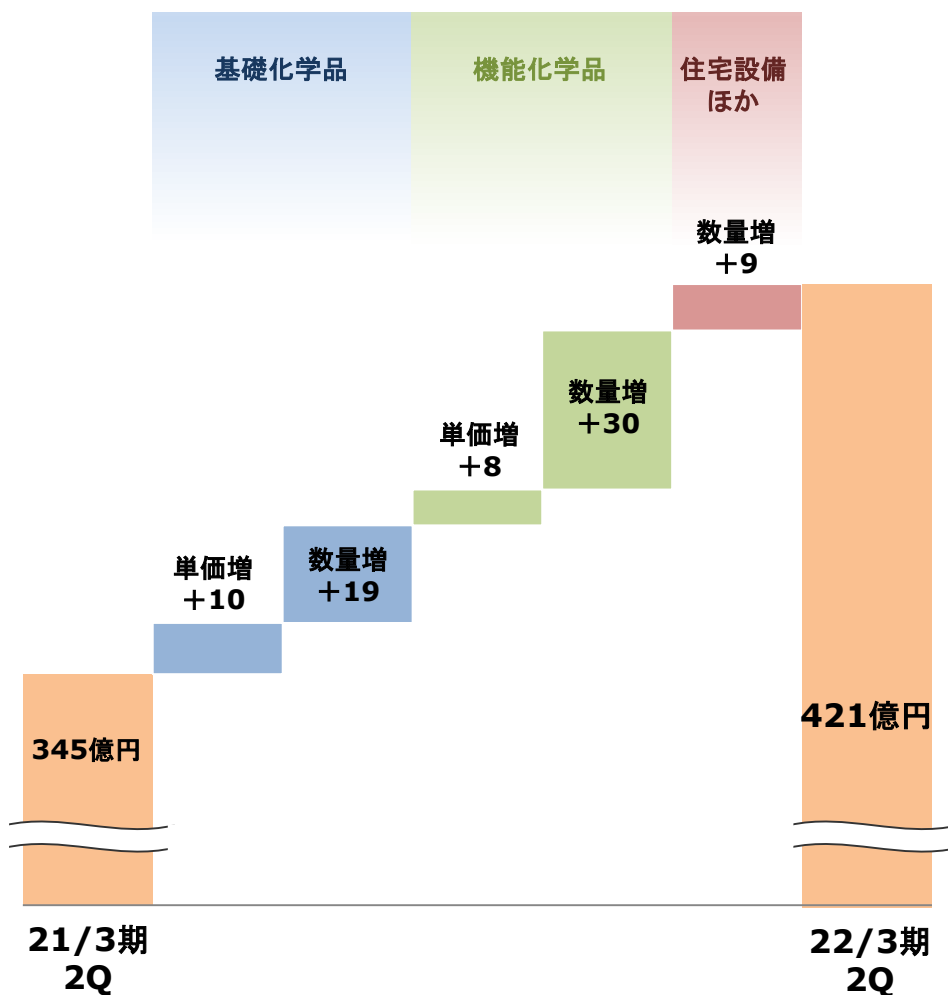
- 合成ゴム
エピクロルヒドリンゴムは、自動車・OA用途向けの世界的な需要回復を背景に好調に推移
アクリルゴムは、中国・東南アジアを中心に国内外で採用拡大
- 合成樹脂
国内では、電子材料向け需要が回復
アジア・欧米では、UVインキ向け輸出が回復
- アリルエーテル類
供給体制の拡充、生産性の向上により世界的な需要拡大に対応
電子材料向けシランカップリング剤の国内・中国向け販売が好調
- ヘルスケア
医薬品精製材料は、欧米・アジアで糖尿病治療薬用途の需要拡大
医薬品原薬・中間体は、抗がん剤原薬・中間体、血流改善薬および不眠症治療薬の中間体が順調に拡大

生活関連商品を中心に堅調に推移

(※)21/3期2Qは「収益認識に関する会計基準」等を適用したと仮定して算出

売上高要因分析

セグメント別 要因分析



(※)21/3期2Qは「収益認識に関する会計基準」等を適用したと仮定して算出

主要製品別 増減分析

基礎化学品

+29(億円)

製品	増減額(億円)
エピクロルヒドリン(EP)	+16
クロール・アルカリ	+8
その他	+5

機能化学品

+38(億円)

製品	増減額(億円)
合成ゴム・合成樹脂 ※1	+15
ヘルスケア ※2	+9
ア릴エーテル類	+6
その他	+8

※1 エピクロルヒドリンゴム、アクリルゴム、ダップ樹脂等

※2 医薬品精製材料(クロマト)、医薬品原薬・中間体等

住宅設備ほか

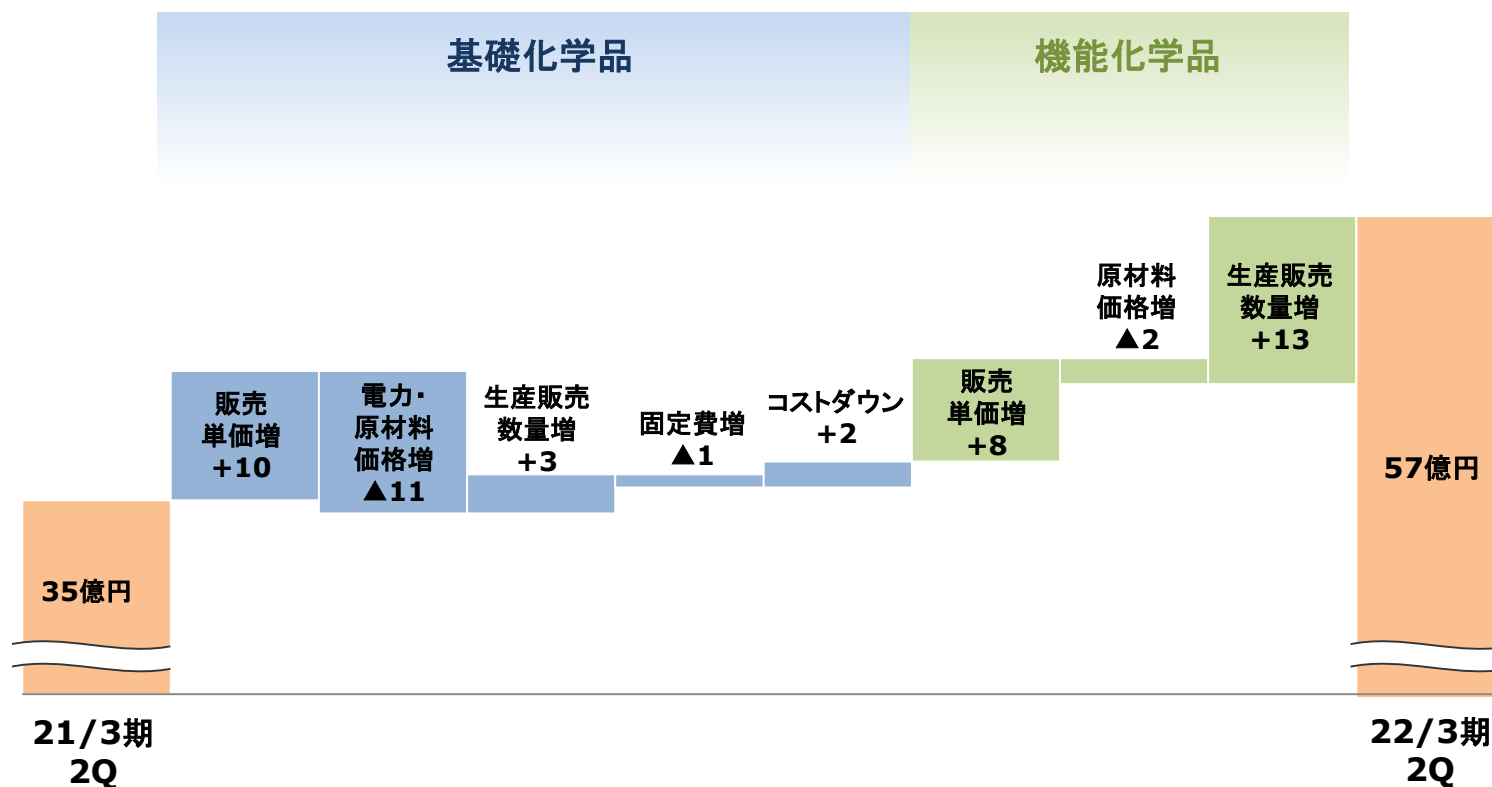
+9(億円)

製品	増減額(億円)
生活関連商品等	+9

営業利益要因分析

- 基礎化学品は、原燃料価格高騰の影響は価格是正による単価増でほぼ相殺。クロール・アルカリやエピクロルヒドリンの販売数量増と生産コストダウンで増益
- 機能化学品は、アリルエーテル類を中心とした販売単価増に加え、ヘルスケアや合成ゴム・合成樹脂などの高付加価値製品の販売数量増が大幅増益に貢献

セグメント別 要因分析



貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書

- 中間期末の現金及び現金同等物は**360億円超**
- 財務安定性はさらに強化され、今後の成長のための**M&A**や投資に十分対応可能
- **R&I**信用格付**A⁻**（安定的）を当期も維持

(百万円)	21/3期2Q	21/3期	22/3期2Q	21/3期比
総資産	110,658	119,373	126,302	6,929
純資産	71,715	77,232	80,485	3,253
自己資本比率	64.8%	64.7%	63.7%	▲1.0%
有利子負債	15,909	15,909	15,907	▲2

(百万円)	21/3期2Q	21/3期	22/3期2Q	前年同期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,638	9,347	7,277	639
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲136	▲1,850	▲2,322	▲2,186
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲3,341	▲4,464	▲795	2,546
現金および現金同等物	32,015	31,936	36,194	4,179

2022年3月期 事業計画

中計の進捗(トピックス)

コロナからの本格的な回復期での飛躍に向けた取組みを着実に実行

レジリエントな事業基盤の構築

基礎化学品

九州地区でのクロール・アルカリ事業再構築に向け、北九州工場の操業を開始(2021年11月～)

機能化学品

アリルエーテル類の製造設備増強(来春完了予定)

ヘルスケア

事業拡大に向け製造設備を増強
医薬品原薬・中間体の新增設を決定
(来春着工、23年4月竣工予定)
医薬品精製材料の設備増強に着手
(ボトルネック工事を来春完了予定)

マーケットイン型開発の推進

モビリティ

アクリルゴムの超高耐熱グレードの開発を推進(求評活動を強化)

情報・通信

銀ナノ粒子の試作設備の増強を決定

環境・エネルギー

当社ポリマー電解質を用いた「半固体電池」の製品化

健康・ヘルスケア

ペプチド、核酸向けに新たな分離機能を持つ医薬品精製材料の新規グレードを開発(求評活動を推進中)

2022年3月期 事業計画

- 経済の先行きは不透明だが、電子材料関連やヘルスケアは堅調に推移する見通し
- 各段階利益は、前期から概ね30%の増加となり、過去最高を大幅に更新する計画
- 中期経営計画の業績目標(売上高800億、営業利益100億)は1年前倒しで達成予定

(百万円)	21/3期		22/3期修正計画		増減率(%)	増減額
		構成比(%)		構成比(%)		
売上高	97,266 (※)75,340	—	82,000	—	— (※)8.8	— (※)6,660
営業利益	8,341	8.6	10,700	13.0	28.3	2,359
経常利益	8,838	9.1	11,400	13.9	29.0	2,562
当期純利益	6,050	6.2	8,000	9.8	32.2	1,950
一株利益(円)	257.37	—	342.95	—	—	—

(※)「収益認識に関する会計基準」等を適用したと仮定して算出

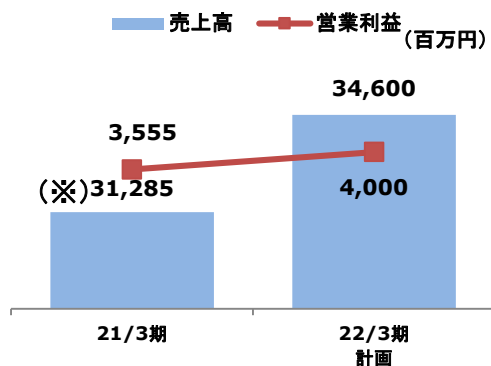
海外売上高(%)	34.1	34.3
----------	------	------

【前提条件】 2022年3月期 想定	
US\$/円	110円
ユーロ/円	130円
ナフサ(円/KL)	52,000円

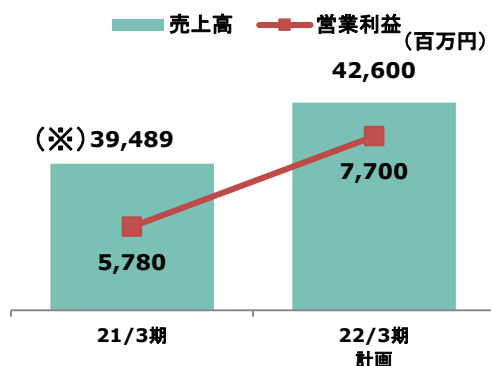
セグメント別売上高・営業利益計画

事業計画達成に向けた取組み

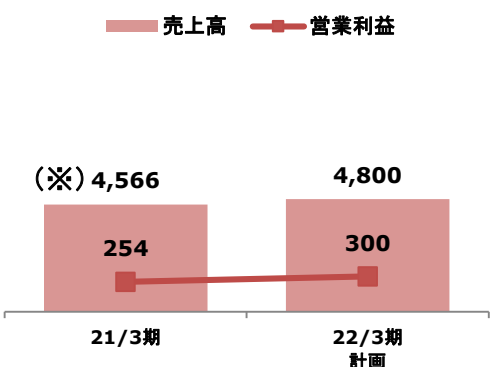
基礎化学品



機能化学品



住宅設備ほか



- クロール・アルカリ
九州地区での拡販、かせいカリ事業の強化
原燃料価格高騰に対応した価格是正の実施
- エピクロルヒドリン
電子材料向け需要増に対応した国内外での販売強化
- 生産コストダウン
A C反応収率アップ、電解運転条件変更による省エネルギー化など

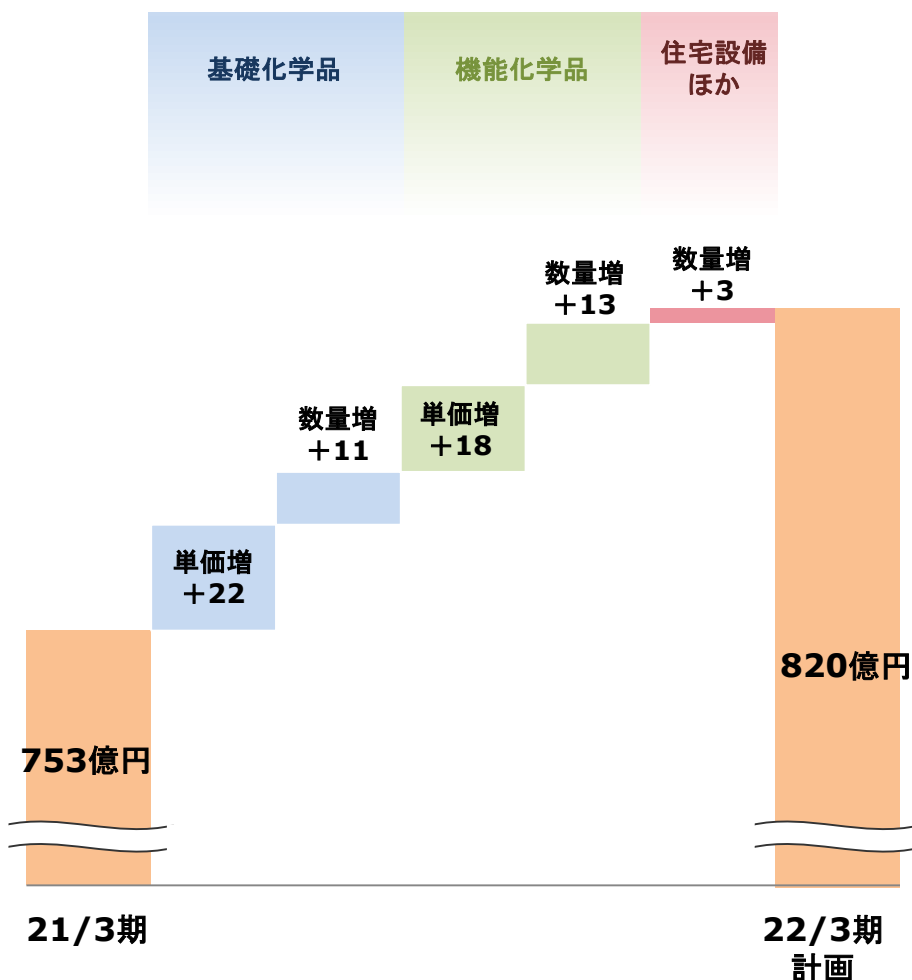
- 合成ゴム
エピクロルヒドリンゴム他種ゴムからの切替促進および新規用途開発の強化
アクリルゴムの新規採用拡大、超高耐熱グレードの上市促進
日東化工・INBプランニングとの協業によるコンパウンド事業拡大
- 合成樹脂
ダップ樹脂の欧米、中国、アジア新興国でのUVインキ市場の深耕
ノンフタレート型アリル樹脂の欧米での食品等パッケージ向け採用拡大
- アリルエーテル類
電子材料向け需要増に対応した供給体制の強化、新規用途市場の開拓
- ヘルスケア
医薬品精製材料の欧米・新興国市場でのシェア拡大
医薬品原薬・中間体の新規案件の獲得、生産体制強化への対応
成長分野である高薬理活性医薬品での新規案件の獲得

- 生活関連商品
衛生関連商品やサプリメント、スキンケア商品等の企画販売を強化

(※) 21/3期は「収益認識に関する会計基準」等を適用したと仮定して算出

売上高要因分析(予想)

セグメント別 要因分析



(※)21/3期は「収益認識に関する会計基準」等を適用したと仮定して算出

主要製品別 分析

基礎化学品

+33(億円)

製品	増減額(億円)
エピクロルヒドリン(EP)	+24
クロール・アルカリ	+8
その他	+1

機能化学品

+31(億円)

製品	増減額(億円)
合成ゴム・合成樹脂 ※1	+16
ア릴エーテル類	+10
ヘルスケア ※2	+8
その他	▲3

※1 エピクロルヒドリンゴム、アクリルゴム、ダップ樹脂等

※2 医薬品精製材料(クロマト)、医薬品原薬・中間体等

住宅設備ほか

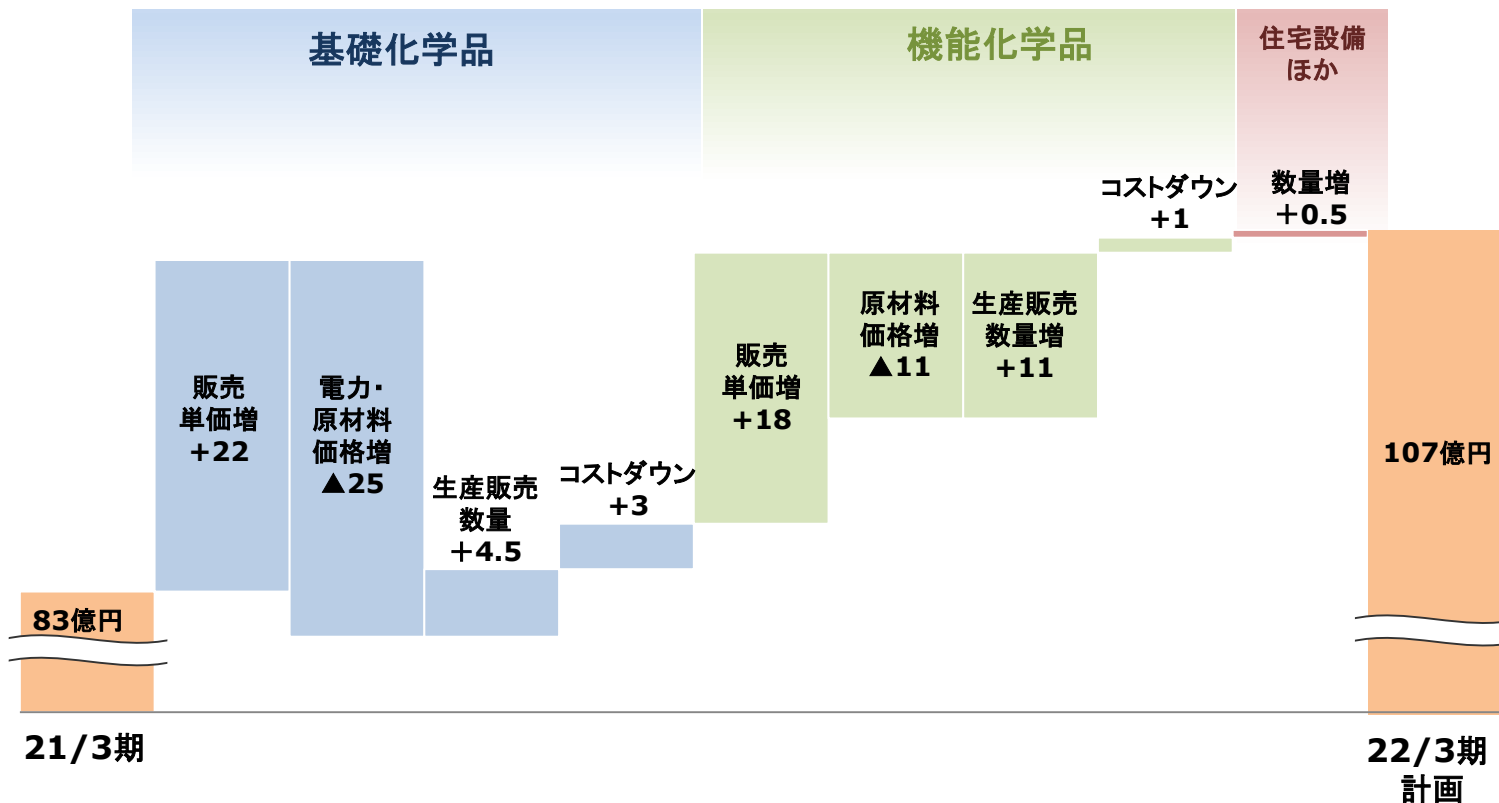
+3(億円)

製品	増減額(億円)
生活関連商品	+9
エンジニアリング他	▲6

営業利益要因分析(予想)

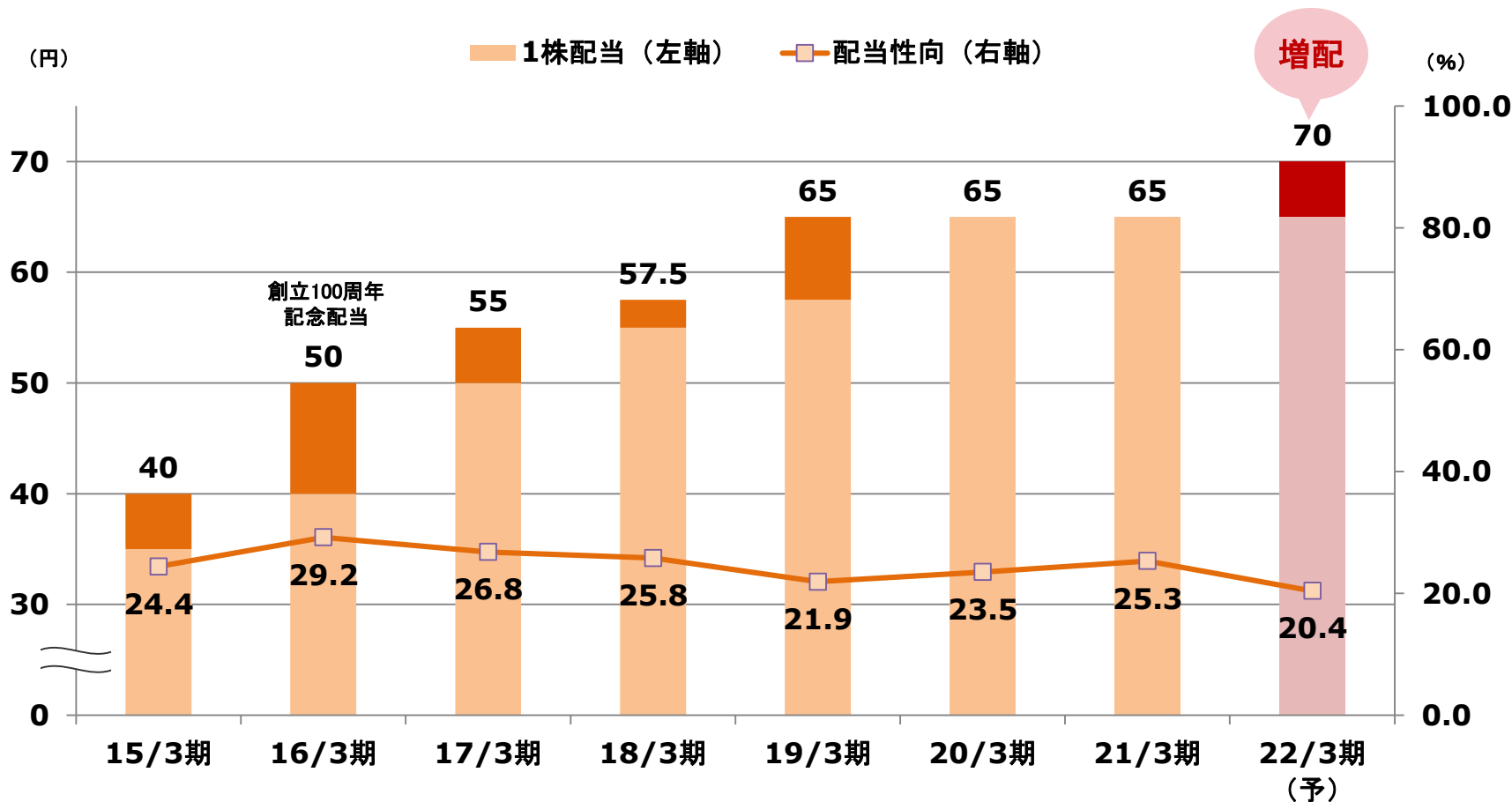
- 基礎化学品は、原燃料価格高騰の影響を価格是正と生産販売数量増、コストダウンでカバーし増益へ
- 機能化学品も、原材料価格の増加分をアリルエーテル類を中心とした販売単価増と、合成ゴム・合成樹脂やヘルスケアの生産販売数量増により増益へ

セグメント別 要因分析



株主還元

- 大幅増益となる業績予想を踏まえ、中間配当および期末配当ともに増配決定
- これにより、1株当たりの年間配当金は、5円増配の70円となる



※18/3期以前の1株配当は、2017年10月の株式併合後の数値に換算して記載。

新製品の開発状況

情報・通信：低温焼結性銀ナノ粒子（銀微粒子）

開発の経緯・進捗

- パワー半導体の革新に必要とされる銀シタリング（焼結）材の技術開発

Point

- ✓ 当社独自の粒子径制御技術を確立
- ✓ 低温焼結性を保持したまま大粒径化を実現
- ✓ 微細銀粉と組み合わせて高緻密焼結体を形成可能（高信頼性）

当社銀微粒子の特徴

① 独自技術：低温焼結性 + 粒径制御

平均粒子径

10 nm 100 nm 1 μm

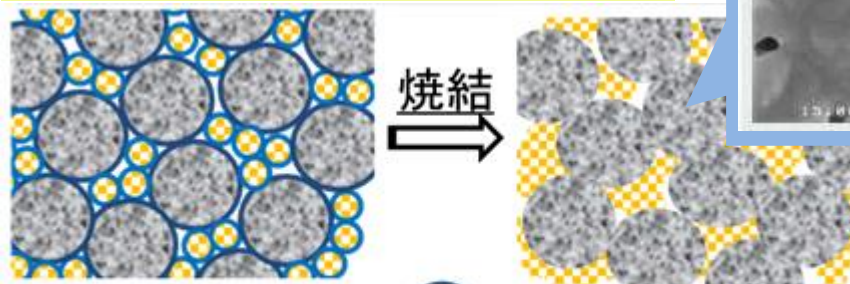
一般的な
銀ナノ粒子

当社銀微粒子
(100~500nm)

微細銀粉

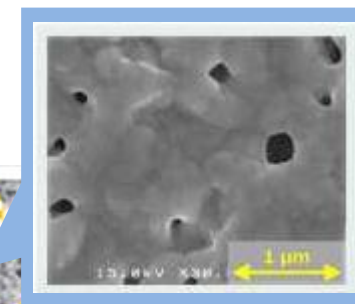
※当社の銀微粒子は
100~500nm範囲で粒径制御が可能

② 緻密かつ低収縮の焼結体を形成



● 当社銀微粒子 ● 銀粉

※当社銀微粒子と微細銀粉の組み合わせにより、焼結時に生じる隙間が少なく、緻密性の高い焼結体が形成される



今後の展開

- 2021年度下期に試作プラントの設備増強を決定
- パワー半導体や電子材料部材（接合材、導電回路、TIM材等）向けにサンプルワークを強化

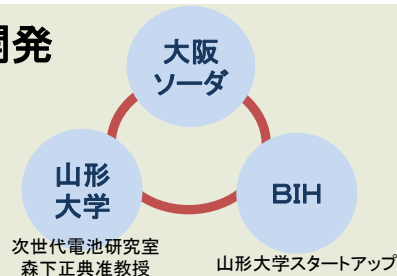
エネルギー・環境：LIB用ポリマー電解質

開発の経緯・進捗

- 当社特殊ポリエーテルによるゲル状電解質を用いた「半固体電池」を共同開発

Point

- ✓ 電池性能を大幅に向上(サイクル寿命・充電時間)
- ✓ 高い形状自由度(薄さ・柔軟性)により多彩な電池設計が可能
- ✓ 高い安全性能を実現



高い電池性能と形状自由度

当社の特殊ポリマー

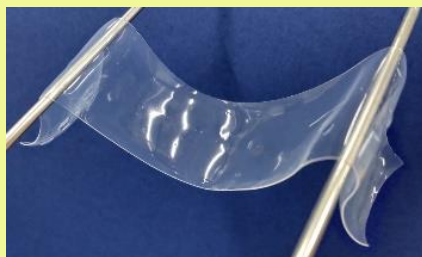


従来の
液体電解質

特徴

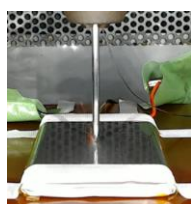
- ・サイクル寿命(2倍以上)
- ・短時間充電
- ・薄膜
- ・フレキシブル
- ・高保液性
- ・分解ガス発生抑制

ゲル化電解質(特許出願中)



高い安全性能 (釘刺し試験)

従来電池



大きく膨れ



発煙



半固体電池



膨れや発煙なし



今後の展開

- ウェアラブル機器、小型家電等の幅広い産業用電池向けに顧客開拓を推進
- 半固体電池の量産試作開始に合わせ特殊ポリエーテルの供給体制を構築
- 薄型の半固体電池を搭載したスマートフォンケースを製品化(BIH)

半固体電池を搭載した
補助電源付きスマートフォンケース
(BIHから2022年度に発売予定)

お問合せ先 株式会社 大阪ソーダ
管理本部 管理部 広報グループ
TEL : 06-6110-1560

本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではありませんのでご了承ください。